

日本写真学会 魅力工学研究会シンポジウム 2026

2026年9月24日(木) 13:00～17:00 アットビジネスセンター渋谷東口駅前

主催 (一社)日本写真学会 魅力工学研究会
協賛 (一社)画像電子学会, (一社)日本印刷学会, (一社)日本画像学会, (一社)日本オプトメカトロニクス協会
日時 2026年9月24日(木) 12:30(受付開始) 13:00～17:00
会場 講演会 アットビジネスセンター 503号室(〒150-0002 渋谷区渋谷2-22-8 名取ビル5階)
アクセス⇒ <https://abc-kaigishitsu.com/shibuya/access3.html>
情報交換会 会場検討中(渋谷近辺の予定)
参加費 研究会・正会員・賛助会員・協賛学協会員 10,000円 非会員(一般) 12,000円、学生 3,000円 非会員(学生) 4,000円

申込方法 参加申込の方は、**参加募集ページ⇒ <https://forms.gle/yq1RYpjGw7oUgPGGr6>** で参加区分(参加費別)のボタンを選択し、「参加登録」(Google Forms)に記入・送信した後に、「お支払いへ」お進みください。 ※こちらのQRコードからも申込出来ます。

参加費支払 「お支払いへ」ボタンからリンクする支払サイトで参加費をお支払いください。
支払い方法は、クレジットカード、ApplePay または GooglePay が利用できます。

定員 100名

申込締切 2026年9月15日(火) (定員になり次第申込を終了します)

連絡事項 講演終了後、情報交換会(17:30～19:30)を開催致します。参加無料ですので、ぜひ最後までご参加ください。
講演テーマおよび講師については、予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。
最新の情報は、日本写真学会ウェブサイト(<https://www.spj.jp/>)をご確認ください。

プログラム

12:30(受付開始) 座長(進行) 津村 徳道(千葉大:現実行委員長)
、土居裕和(長岡技術科学大:次期実行委員長)

13:00～13:05 開会挨拶 中野 寧(日本写真学会会長)

13:05～14:05

基調講演 ”生成AI時代の魅力工学：人の「共感・共鳴」を測り、支援し、拡張する”

山崎 俊彦 先生(東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻)

人が感じる「魅力」や「共感」を工学的に捉え、社会に活かす魅力工学は、生成AIやマルチモーダル情報処理の発展により新たな段階を迎えている。本講演では、研究室で取り組んできた画像・映像・音声・テキストを対象とする魅力度予測、要因解析、表現支援の事例を紹介する。さらに、「刺さる」「映える」「響く」といった主観的価値を、AI時代にどのように測定し、設計し、拡張できるのかを議論する。

4:05～14:45

招待講演1 魅力工学のダークサイド

小俣 貴宣 氏(ソニーグループ株式会社)

魅力工学研究は、何かをより良く演出したり、人々を惹きつけたり、良質な体験をもたらすなど、今日の産業・社会における新たな価値創出に貢献しうる。しかし一方で、こうした魅力工学研究が不適切に用いられるリスクも懸念される。たとえば心理学の知見やテクノロジーを巧みに活用した施策により、むやみに注意を奪われたり、感情や意思決定を操作されたり、行動嗜癖に陥るなどの問題が指摘されている。
本発表では、以上のような施策において心理学の知見がどのように関与しているのか、様々な研究事例と共に紹介する。続いて心理学の知見の活用に関して、発表者が慶応義塾大学にて取り組んでいる教育実践を紹介する。最後に今後の魅力工学研究に期待することを述べる。

14:55～15:35

招待講演2 「内面で感じた魅力(非言語化感覚)の伝達と共有」

榎堀 優 先生(名古屋大学)

魅力は個々人の内面で感じるものである。同じものを見たり触ったりして個々人が同じく「良いもの」と判断したとしても、感じている魅力や魅力を感じている箇所が同じとは限らない。また、なんとなく、といった言語化できない感覚であることも多い。これをどのように明らかにして、どのように共有可能としていくか、つまり、あの人も私と同じ「魅力」を感じて欲しい、をどう実現していくかについて、研究室で取り組んできた伝統的工芸品を対象とした研究事例を紹介する。

15:35～16:15

招待講演3 「伝わる」を科学する：AIがひらくコミュニケーション支援の未来

易 聖舟 先生(東京大学大学院情報理工学系研究科電子情報学専攻)

人の発話・文章・視覚表現などを手がかりに、相手に伝わるコミュニケーションをAIでどのように捉え、支援できるのかを考える。具体的には、プレゼンテーション、面接対話、心理相談、広告・ポスターなどを対象に、話し手や表現者が相手にどのような印象を与えるのかを分析し、その理由を分かりやすく説明する研究事例を紹介する。さらに、AIが単に評価を行うだけでなく、よりよく伝えるための気づきや改善の手がかりを与える道具になり得ることを議論する。人の感性とコミュニケーションをつなぐ視点から、魅力工学の新しい可能性を展望する。

16:15～16:55

招待講演4 「語る顔」～被写体の魅力を引き出す撮影・画像処理～

和田 直樹(日本写真家協会 理事、東京工芸大学芸術学部 非常勤講師)

大学卒業後、職業写真家としてフィルムで20年、デジタルで20年、計40年の歩みを重ねてまいりました。分野を問わず幅広く撮影してきましたが、主軸としてきたのは雑誌のインタビューや対談などの人物写真です。誌面において、語り手の言葉に「真実味」を与え、読者の関心を引きつけるのがポートレートの実践すべき役割です。そのため、被写体の生きてきた人生そのものを一枚の写真で表現することを理想に掲げ、光、背景、タイミング、そして編集者の意図を尊重した写真セレクトを常に心がけてきました。
本講演では、これまで撮影した政治家、作家、音楽家、俳優などの作品をお見せしながら、40年間の経験に基づく実践的な知見をお話しします。

16:55～17:00 閉会挨拶

17:30～19:30 情報交換会

問合せ先 (一社)日本写真学会事務局 魅力工学研究会シンポジウム係 E-mail: info@spj.jp Tel: 03-3373-0724

